

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2372400495		
法人名	医療法人 宏友会		
事業所名	ふれあいハウス		
所在地	愛知県半田市乙川吉野町67番地		
自己評価作成日	平成28年1月	評価結果市町村受理日	平成28年2月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	福祉総合研究所(株)		
所在地	名古屋市東区百人町 スクエア百人町1階		
訪問調査日	平成28年1月22日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

施設内に看護職員や機能訓練指導員が常駐しているため異常時や緊急時も含め健康管理がしっかり行え身体機能低下の予防等も相談に乗ってもらえている。介護度が高い高齢の方が多く入居されているなかでご希望があれば最後の時までを係らせていただき看取りまでお受けしている。

事業所1階にはデイサービスが併設され、グループホームはその多機能性を活かし、看護師や機能訓練指導員が職員として配置されており、医療やリハビリ面で手厚い支援が行われている。居室には個々の長所を表した感謝状が掲示され、職員が利用者に寄り添いきめ細かい介護をしている姿勢が伺える。職員は、ユニット間を越えて利用者を支援しており、1階と合同会議を開催し、お互いに情報を共有し、連携を取り合い一丸となって関わり支えている。また、職員は法人内外の各種研修に参加し、介護への意識は高い。買い物や散歩に出かけることが日常リハビリになり、足腰の強化へと繋がっている。施設内には、温かみのある筆文字の掲示物が掲示され、ほっとする空間で満ちている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	フロアの目のつくところに掲示し常に意識できるようにしている。入職時オリエンテーション時や会議の際折に触れ理念の目指すことの意味を伝えている。	事業所独自の理念達成目標に向け、職員は毎年目標をたて半年毎に自己評価し、管理者のチェックを受け、実践へと取り組んでいる。また、朝礼時、1カ月の目標を唱和し、意識づけを図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議に民生委員に参加していただいたりし地域の方と交流が持てるようにしている。地域の井戸端会議に参加したり区の一員になっている。	町内会に加入し、市報で半田市や地域情報を得ている。事業所の夏祭りやクリスマス会といった行事に参加したり、1階のデイサービスに通う人と交流している。継続している小学生とのふれあいは利用者から笑顔があふれ、楽しみとなっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	機会あるごとにボランティアの方達に来ていただき認知症について理解してもらったり市や市の主宰の交流の場に参加し交流している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議で出た意見はスタッフ間で共有し日々のサービスに活かせるように取り組んでいる。	2か月毎に開催され、事業所の状況や行事報告、ヒヤリハット・事故報告をしている。外部評価の結果や行政から資料に基づいて介護報酬の改定、取り組み中の事案の経過報告や方向性についても説明している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	こまめに担当者を訪問し連絡を取り合ったり半田市主催の会議には参加し情報の共有を図っている。	担当者や地域包括支援センターに運営推進会議の議事録や各種資料、パンフレットを届け事業所の様子を伝え、協力関係が得られるよう努めている。半田市主催の在宅ケア推進会議に出席し、情報交換や交流を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	折にふれ話し合い理解するように努めている。	研修等で職員は身体拘束の内容を共有し、正しく理解しており、拘束をしない介護に努めている。各階の入口は、安全面を考慮し職員体制によっては一時的に施錠する場合もある。スピーチロックは、その都度注意し、個々の意識向上を支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内の虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	研修にも参加し内容を共有するように努めている。また観察を密にし全身の観察も含め虐待を見過ごさないようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加し必要な内容については情報を共有している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ゆっくりわかりやすい説明を心がけて理解していただけるように努めている。わからないことはいつでも聞いてもらえるように声かけをして不安や疑問の解決に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時にこまめに声をかけ状況をお伝えしご意見や要望を聞けるようにしている。また電話連絡も行いなんでも言い合える関係づくりを心がけ運営の参考にしてしている。	「出来る限り衛生用品のご持参を」と家族が事業所へ足を運ぶ機会を設け、来所時に意見や要望を話し易い雰囲気づくりに努めている。出された内容は、職員間で共有、検討し、個人のケアに反映させる等サービスの質の向上に取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的な会議やミーティング開催で意見を出し合い問題解決に向けて取り組んでいる。	2ユニット合同で月1回ハウス会議を開催し、職員の意見や提案を出し合い、サービス向上に努めている。研修で感じた記録と介護の不整合性を目標達成計画に挙げ、記録の意味を確認し合い、様式を見直し、充実した記録が残せるよう書式の変更をした。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人面接を行ったり法人で共通した実行計画書を記入してもらい個人目標を設定し振り返り評価している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修をたくさん受けてもらえるように機会を作り勤務で参加できない職員の為にも復命し内容の理解を共有できるようにしている。アセッサーの取り組みも行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内外で交流する機会をもち職員が順次参加できるように取り組んでいる。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	情報をしっかり収集し何が困っているのか不安なのかニーズは何なのか本人や取り巻く家族や関係する方達から把握するように努め本人の心身の安定が得られるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	こまめに声かけしよく話を聞くように努め情報を得るようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	話をよく聞きどのような支援が一番必要なのか相談しより良い必要なサービスが選択できるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人が何を望んでいるのかいまい何が出来るのか可能性はどうなのか職員間で情報を共有し皆が同じように関わられるように努め過剰介護にならないようにしている。他人以上身内未満の関係づくりを心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や家族会、運営推進会議、電話連絡などで今の心身の状況をお伝えし信頼される関係づくりに努力している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人を取り巻く大切な方達が訪問しやすい施設になるよう配慮しつづける環境になるように努力している。	家族の協力で墓参りや馴染みの喫茶店へ出かけている。申し出があれば、家族と相談の上、電話取り次ぎや年賀状のやり取りの支援も行っている。近隣のショッピングセンターは入所後馴染みとなり、買い物を楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	1人1人の個性や特徴をふまえて席を配慮したり職員が間に入り良い関係が築けるように努力している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要時電話や訪問し相談に乗る体制を作って支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	今までどのように暮らし生きてきたのかご家族に聞き取りながらご本人の思いや考え方を把握するように努めている。	入居時、本人や家族にどのように暮らしたいのか尋ねたり、職員が日々のかかわりの中で声を掛け把握するようにしている。困難な場合は顔の表情から職員や看護師等で身体の変化に対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人を取り巻く方達(これまでの受けてきたサービス関係者含む)から聞き取るように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	きめ細かく些細なことも観察し情報を共有するように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的なミーティングやご家族への聞き取りにより今の状態に即した介護計画作成に努めている。	職員は担当制で本人・家族の気づきや意見を聞いたり、月1回のミーティングで話し合い現状に合った介護計画を作成し、本人や家族に面会時に説明を行っている。見直しは6か月、病状の変化があった場合は随時見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	情報を共有しながら問題意識を常に持ち日々の介護の実践しその積み重ねが介護計画にも反映されるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族の希望やご本人の状況によりどういうサービスが一番適切なのか意識して柔軟に考えるようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	半田市内の地域資源を把握するように研修に参加したり広報も確認しながら取り組んでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診には必要時やご家族の希望があればいつでも同席していただいたり専門医や他の医療機関への紹介もさせていただいている。	往診は月4回ある。往診の前日に必要に応じて看護師が身体の状態等を話し合い、診断の結果は必要に応じて家族に電話で連絡している。通院は家族の希望があれば同席や訪問歯科など適切な医療を受けられるように支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的なミーティングには看護職も参加し日々の介護の中でも適時相談を受け適切な健康管理が行われるように努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者とは常に連携し情報を得たり相談が出来る体制づくりにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時にハウスでの看取りの体制や重症化した時はどこまで支援が出来るのか説明させていただき必要時医師からも説明していただきながら理解していただいている。運営推進会議や家族会においても話題にし考えていただく機会づくりをしている。	入居契約時の説明や運営推進会議や家族会でも看取りの方針とホームでの取り組みについても話し合いをしている。重度化した時家族、医師、看護師と相談し「どうしたいか」相談し方針を共有し、チームで支援に努めている。今年は2名の看取りがあった。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に研修や勉強会を開催しどの職員もきちんと対応が出来るように取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な訓練を実施し半田市の避難訓練の情報も得るようにしている。	避難訓練は年2回夜間を想定して行われた。一回目は車いす、二回目は杖歩行者を中心にどのようなようになるか避難訓練を実施し、記録もきちんと記載されている。備蓄品は水・ご飯・レトルト・おむつ等3日分用意されている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇研修や認知症の方への関わり方の研修参加も含め常にさせていただくという謙虚な気持ちを持ち人生の先輩である方達にどうかかわればよいのか互いに注意しあいながら対応に努めている。	接遇の研修を定期的に行っている。利用者に対して名前呼び入室するときには「失礼します」と声を掛けたり、補聴器がうまく利用できない人にはカードを作り、その人に合った接し方を工夫している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の関わりやきめ細かい観察からご本人の思いや何を望まれているのか把握するように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな日課は決まっているがご本人のペースを大事に柔軟に対応するように心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の希望や好みを聞きながら対応している。定期的な理容も心がけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節に応じた食事や行事食、少しでもおいしく召し上がっていただけるように工夫しながら出来る部分でのお手伝いをしてもらっている。	食事が楽しみになるように月1～2回職員が行事にちなんで豪華なメニューを考えたり、年2回(春・秋)外食をしたり、夏場、栄養面を考慮しそうめん料理など工夫している。後片づけのお盆拭きなどできることはしてもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	きめ細かく観察し必要な栄養が取れているのか看護職や栄養士も含め支援している。必要時水分出納チェックも行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声を掛け合い適切に口腔内の清潔が維持できるように支援している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表に基づき1人1人の排泄パターンや尿意や便意の有無も含め把握し適切な排泄支援が出来るように努めている。	排泄チェック表を作成し、職員は利用者の排泄パターンを把握している。おむつを外すときにはミーティングで話し合い、おむつから布パンツに変え、その人に適した排泄の自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の状況を把握し腹圧のかけやすい姿勢や腹部マッサージ、看護職との連携で適切に排便が出来るように支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	大筋の入浴日は決まっているが1人1人の状況に応じて時間や入浴場所は柔軟に対応している。	入浴は週3回と決まっているが、利用者の状況によってはいつでも入れるようになっている。大浴場でくつろいで入ってもらったり、しょうぶ湯やゆず湯・みかんの皮湯などを利用して楽しめる工夫をしている。重度の人は2～3人で対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	今まで使用していた好みの寝具を持ってきていただいたり快適な安眠が得られる環境づくりを支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護職や薬剤師と連携をとりながら薬についての正しい知識を持ったうえで服薬が支援できるように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人を取り巻く方達から情報を得るように1人1人の把握に努めている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣のショッピングセンターへの買い物も含め定期的な外出を心がげご家族へも声をかけ一緒にさせていただくこともある。	一人ひとりのその日の希望で近所のショッピングセンターへの買い物をしたり、初詣、花見(春は桜、秋は彼岸花)など季節の移り変わりを肌身で感じたり、本人の希望を把握しながら外出支援に努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出先で支払いに関わっていただくようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自由に手紙のやり取りはしていただいている。電話はご希望時には職員が見守りながらかけていただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた雰囲気作りや空間作りにつとめて快適で安全な場所になるようにしている。	居間は広々としてテレビを観るソファやテーブルが設置されている。対面式の台所からは炊飯のにおいがし五感の刺激になっている。廊下には利用者が月2回のいけばな教室での作品、壁面には羽子板やタコ・書き初めが掲示されるなど居心地よく過ごせるように工夫されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	席の配慮をしながら思い思いにストレスのない時間が過ごせるように心がけている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族に協力していただきながらご本人のそばに置いておくことで心の癒しや安寧が得られるような部屋作りを心がけている。	居室はベッド・ダンス・洗面台・ナースコールなどが設置され、壁面には本人の作品や敬老会の折に職員からそれぞれの人のいいところがつづられた感謝状や家族の写真も飾られ、本人が居心地良く過ごせるように工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全をまず第一に快適な環境になるようにしている。過剰介護にならないようお一人お一人の心身の状態の把握に努め少しでも自分の出来ることを維持できるように支援させていただいている。		